

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スローガンの気くばり・目くばり・心配りを掲示し心掛けている	「気くばり、目くばり、心配り」というスローガンに沿った支援について日々感じた事例を2ヶ月に1回開かれる全体会議で取り上げながら話し合い、サービスの向上に繋げるようにしている。家族に対しては利用契約時に法人の理念についても説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為本年度は中止している。	開設以来、参加できる地域行事に参加しており、今年度より自治会費を納めるようになったという。例年、地区の敬老会への参加、また、お祭りの際にはホームの入る複合施設の駐車場が子供神輿の休憩所となるなど、利用者も楽しみにしていたが、今年もコロナの影響を受け中止となり残念な状況となっている。新型コロナ収束後には積極的に地域の人々との交流を行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉専門学校生の実習を2名受け入れた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為本年度は中止している。2カ月に1回資料のみ送付している。	今年度も新型コロナ感染拡大の影響を受け対面での運営推進会議の開催が難しい状況にあり、2ヶ月に1回の書面での開催とし、家族代表、区長、地区社協会長、民生委員2名、市高齢者活躍支援課職員等の会議メンバーに会議資料と2ヶ月に1回発行されるお便り「こもれ陽栗田2号館便り」をお届けし、電話などで意見・助言を頂きサービスの向上に繋げるようにしている。今後、新型コロナ収束まで、会議参加メンバーに対し「ご意見、ご要望用紙」を返信用封筒とともに会議資料に同封してお届けし、意見などを頂く予定にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為安心相談員さんの来所もお断りした	市高齢者活躍支援課に対しては事故報告等の必要事項について速やかに報告を行っている。介護認定更新調査は調査員が来訪し職員が対応し行っている。新型コロナ禍が続き、あんしん(介護)相談員の来訪が中止となり残念な状況が続いているが、収束後には再開したいという。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の危険がある方には帽子・膝当ての使用をお願いし、見守りと行動に寄り添うように努めている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。入居間もない利用者は帰宅願望が強いので優しく寄り添い話を聞き、気持ちを落ち着かせるよう取り組んでいる。転倒危惧のある利用者があり、家族と相談の上センサーマットや人感センサーを使用しリスクを回避するようにしている。スピーチロック等、言葉遣いには特に気を配り「ちょっと待って」等、行動の制約に繋がるような言葉遣いしなよう日々徹底している。2ヶ月に1回の職員全体会議と3ヶ月に1回開かれる身体拘束適正化委員会で拘束に対する意識を高め、拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声かけの仕方・言葉使い等が職員間で温度差がある。研修等で学んだり職員間で指摘し合える意識が必要である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての学習や研修会を行い支援する体制を整える必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を取り説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等では家族の方に入居者様の様子を話したりコミュニケーションをはかるように努めている。	新型コロナ感染拡大の影響が長く続き家族の面会や敬老会等への家族の参加が見送られ残念な状況が続いている。面会は現在も全面的に中止の状況が続いているが、家族と接する機会を設けるための工夫をしている。昨年6～7月の新型コロナの減退傾向にある時には事前予約を頂き事務所の窓越しで短時間の面会を行い、併設デイサービスが休日の日曜日に荷物を届けていただき、1階玄関で顔を見ていただき、合わせて受診時には病院で落ち合っていたくようにしている。また、ホームでの様子は2ヶ月に1回発行されるお便り「こもれ陽栗田2号館便り」でお知らせし、一人ひとりの様子は所長よりの手紙等でお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で意見を反映している	2ヶ月に1回、職員全体会議とユニット会議を行い、全職員の意見を吸い上げ業務の向上に繋げている。全体会議では所長よりの連絡、身体拘束関連の話し合い、各種勉強会、意見交換等を行い、ユニット会議では利用者一人ひとりのカンファレンスを行っている。人事考課制度があり、年2回「カウンセリングシート」を用い、目標について自己評価を行い、賞与の時期には個人面談を行い一人ひとりのモチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や悩みや人間関係を把握するよう努めている。 年2回人事考課を行い向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為外での研修が中止となりリモート研修が出来るような環境に努めている。 Zoomの活用をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	こもれ陽栗田との連携や他の事業所との交流によりサービスの質の向上を目指す必要がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人に会い心身の状態や思いに向き合いながら聞き取った内容を職員と共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞き、事業所としての対応を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ることはその場で対応し状況を見ながら支援していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ禍の為食事は一緒にしていないが、外出が出来ない分互いに支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為受診の付き添いははしていない。結果を電話やラインで伝えている。物品の購入も職員が買い物をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で窓越し面会やビデオ通話をして家族とのつながりを保っている	新型コロナ禍が続き、友人、知人の面会は中止されている。そのような中、2ヶ月に1回、顔写真入りの便りを作成し家族に届け喜ばれている。また、スマートフォンを持つ方が数名おり、家族と連絡を取り合っている。今年の年末は手作り年賀状を家族に発送する予定を立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し孤立しないよう互いに協力し合い尊敬できる関係となるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた場合は情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで傾聴し把握に努めている。	元気な方が多く、ほとんどの利用者が、言葉、仕草等で思いを伝えられるという状況である。恒例のパン祭りでのパン選び、お茶・コーヒー・紅茶等、何種類かの飲み物を提案し選んでいただくようにしている。また、行事の際には「おはぎ」を作ることが多く、「あんこ」「ゴマ」「きな粉」の3種類を作り、選んでいただいている。入浴時や居室において一人ひとりの話を伺い、希望に沿うようにしている。そのような中、気づいた言動等は申し送りノートに纏め情報共有し、意向に沿った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活の中での会話からどのような生活をしてきたか把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し一緒に行動することで状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族は日頃の関わりの中で思いや意向を聴き反映している。カンファレンスを行い職員の意見を聞いている。	職員は1~2名の利用者を担当し居室管理、日々の状況把握などを行っている。2ヶ月に1回のカンファレンスの席上で意見を出し合い、家族の意向は来訪時や電話で聞き、ケアプラン更新時にはケアマネージャーと所長がモニタリングを行い、プラン作成を行っている。入居時は3ヶ月間のプランを作成し、その後短期目標6ヶ月、状態が安定している場合は長期目標を1年としプラン作成を行い、状態に変化が見られた時には随時見直し、一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に残し職員間で申し送りをを行い情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じて通院や物品の買い物等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為運営推進会議は中止したが2か月に1回資料を配布し意見をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医や希望の病院を受診している。基本は家族同行だが不可能な時は職員が代行している。	入居時に医療機関についての説明をしている。現在、入居前のかかりつけ医を利用している方が三分の一弱いるが、他の多くの利用者はホーム協力医への受診対応で職員がお連れしている。新型コロナ禍の中、現在は3ヶ月に1回の受診対応となっており、受診時、病院で家族と落ち合ようとしている。また、週3日勤務の看護師がおり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携が取られている。歯科については必要に応じ協力歯科への受診で対応し、月1回歯科衛生士の来訪があり利用者の口の健康にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。いない時は記録・送りを基に連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行い、入院中は医療機関や家族と密に連絡を取り対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を踏まえ、出来るだけ家族の希望に添えるよう話し合いを行っている。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。食事を摂ることが難しい状態となり重度化に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合う機会を持ち、家族の意向を確認の上協力医の地域医療連携室と連携を取り、可能な限りの支援に取り組み、協力医療機関の療養型病棟への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予想される場合の対応や事故発生時についての話し合いはしている。看護師からの急変時の対応等はその都度確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は行っている。コロナ禍の為地域への働きかけはしていない。	10月と3月の年2回消防署へ届け出の上、併設のデイサービスと合同で防災訓練を行っている。防災会社の協力をいただき2階のグループホームよりの出火を想定し水消火器を使っての消火訓練、非常階段を使って1階まで移動しての避難訓練、スマートフォンを用いての緊急連絡網の確認訓練、防災機器の点検等を行っている。備蓄については「水」「お米」「レトルト食品」「介護用品」等を4日分準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックなど人格の尊重が徹底できず会議で検討会を行ったり職員間で話しあう機会を設けている。	言葉遣いには特に気を使い、きつい言葉にならないよう、また、行動抑制に繋がるような言葉遣いはしないよう心掛け、日々の支援に取り組んでいる。合わせてトイレ介助の際には必ずドアを閉めるよう徹底している。呼び掛けは基本的には苗字で呼びかけているが、同じ苗字の方がいる時は下の名前を「さん付」で呼びかけている。入室の際には「ノック」と「入ります」の声掛けを行うよう心掛けている。身体拘束適正化委員会の中でスピーチロック等について話し合い、気持ち良く過ごしていただくようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けをしたり、おやき昼食会では好きなおやきを選んでいただいた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているが利用者のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の時は自分で服を選んで頂いている。起床時は鏡の前で身だしなみを整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為食事は一定の距離をおいて食べている。おやきを一緒に作ったり野菜の皮むき等していただいている	ほとんどの利用者は自力で食事ができる。献立は職員2名がチームとなり季節感を加味しながら1ヶ月分の献立を立て調理している。新型コロナ禍が続き、外食も難しく、季節の行事に合わせお正月には「おせち料理」、お彼岸には「おはぎ」、お盆には「おやき」などを作り、誕生日には「お寿司」をテイクアウトしている。また、恒例の「パン祭り」も行い、好きな物を選んでいただき楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い体調管理に努めている。本人の好みの水分と形態も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科衛生士さんの指導を受け毎食後磨いている。職員の仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入リズムを把握している。日中はトイレで排泄をしている。	自立の方が三分の一弱、一部介助の方が三分の二弱、全介助の方が若干名となっている。夜間のみおむつ使用の方がいるが、利用者全員がトイレで排泄できるように支援している。起床時、おやつ時、食事前後、就寝前など、定時の誘導と排泄表を用いて一人ひとりの状況に合わせて声掛けを行い、トイレに誘導し気持ち良く過ごしていただけるようにしている。排便については3日間ない場合排便コントロールを行い、「お茶」「紅茶」「コーヒー」等を中心に1日1,200cc以上の水分摂取に取り組みスムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便のリズムを把握を促している。水分補給を促しラジオ体操を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴となっている。曜日は決まっているが体調や気分により変更している。	自立の方が三分の一弱、一部介助の方が三分の二弱、職員2人での介助の方が若干名という状況である。入浴拒否の方はおらず、全利用者週2回の入浴を行っている。全国の温泉シリーズの入浴剤と合わせ「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。入浴後は「麦茶」や「スポーツ飲料」等、冷たい飲み物も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムで午睡したり安眠できるように日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに整理し職員が内容を共有できるようにしている。内服時は声に出し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中から得意なことを見つけ活かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出、外食はしていない。3階でお茶を飲んだりラジオ体操をしたり屋食会をして気分転換を図れるよう支援している。	外出時、自力で歩行できる方が三分の一弱、歩行器使用の方が若干名、車いす使用の方が三分の二弱という状況である。新型コロナ禍が続き、外出計画は立ててはいるが状況を見ながら感染対策を取った上で気分転換を兼ね市内の若里公園までドライブに出掛けたり、冬場の夜間、南長野運動公園までイルミネーションの見学に出掛けたり、桜の季節には犀川の土手までお花見にも出掛けている。また、複合施設内の3階屋上に出て畑で夏野菜や花の栽培を楽しんだり、定期的に外気浴を兼ね屋上で食事会を行い、外の空気にふれるようにしている。新型コロナ収束後には以前のように年間計画を立て外出や外食を行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ビデオ通話をしたりお手紙を書いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったりメダカを飼い餌をあげたり喜んでいただいている。	掃除が行き届き清潔感が漂う共用部分は大きな窓から明るい日差しが一杯に差し込み開放感が漂っている。天井からは職員手作りの手芸品が吊るされ華やかさが感じられる。また、3階屋上には家庭菜園と外気浴用のテーブル・イスが置かれ、新型コロナ禍で外出が自粛されている中、寛ぎの場として活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍の為直線に並んでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や洋服を持参しこれまでの生活が継続できるよう配慮している。	各ユニットには和室が2部屋準備され希望により使用することができる。各居室には大きなクローゼットが設置され、整理整頓が行き届いている。家族と相談の上、使い慣れたタンス、イス、衣装、ケース、ハンガーラック、テレビ等が持ち込まれ、壁には家族の写真や誕生日のメッセージカードが飾られ思い思い生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のわかること出来ることを見極め必要な目印をつけたり、配置に配慮している。		